

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2階)**

事業所番号	2792000115		
法人名	医療法人真芳会		
事業所名	いきいきグループホーム杉本		
所在地	大阪市住吉区杉本1丁目6番16号		
自己評価作成日	平成28年12月19日	評価結果市町村受理日	平成29年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成29年1月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

慢性疾患や医療依存の高い利用者でも安心して暮らせるよう環境を整備しています。常に医療関係者と連携がとれる体制を整えています。また介護従業者にも、必要な医学的知識の研修を行っており、入居される方だけでなく、ご家族にも安心していただけるよう取り組んでいます。
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

医療法人の運営になる当グループホームは医療連携が充実している。協力医療機関のはやし泌尿器クリニックの医師が月2回往診し看護師が毎週来て利用者の健康管理をおこなっている。医療連携記録簿に医師の診断結果や所感、看護師の管理記録が細かく記録され、介護職は事業所でのモニタリングや居室担当の意見に加えて医療連携記録を参考にして介護計画を作成している。介護職も医学的知識の研修を受け常にスキルアップを図っている。これらの環境の中で利用者の健康管理に活かされつつある。介護現場では、利用者の持てる力を生活リハビリの形で活かし、利用者に元気と生き甲斐をもたらしている。管理者はじめ職員は理念にある「利用者様を、福祉・医療の両面から支えます」を実現すべく励んでいる。今後に期待できることの大きいホームである。
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア入口に理念を掲示し、従業員全員に周知させ、理念の共有に努めている。	「利用者様の人権を尊重し、家庭的で安らかな生活を・福祉医療の両面から支える・地域の皆様と協力してより良いホーム作りを目指す」の理念を事業所の入口、各ユニットの入口に掲示し、職員はこの実現に励んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる喫茶や、地域が行っている催しに参加し、地域の人々との交流を図っている。	事業所は町会に加入し、ふれあい喫茶、夏祭り、老人会等の地域行事に参加し、近くの大学祭に招かれて参加し、又ボランティアの中学校の吹奏楽団の慰問訪問や、指導員によるカラオケ指導など受け入れ、地域との交流を深めている。	地域との交流に事業所の持てる力を還元することがあると思われる。高齢者の介護相談、事業所の催しに地域の人たちの招待とか、地域住民と密着して「地域の皆様と協働し、より良いホーム作りをめざします」の実現を図ることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護事業所に順次、認知症サポーター養成講座等を受講させ、その役割を活かすよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、近況報告等をし、その評価や意見を参考にサービス向上に向けて努力している。	会議は2カ月毎に民生委員、地域包括支援センター職員、町会長、利用者、家族と事業所より管理者、計画作成担当者、本部職員の参加で開催し、事業所の現状報告に続き、出席者からの意見提案を頂き運営に反映させている。地域代表、家族の欠席が多い。知見者の参加が少ない。	運営推進会議は地域の理解と支援を得るための貴重な機会である。会議メンバーが協力者、モニター役となることが望まれる。地域代表、家族、同業の管理者等知見を有する人達の参加を要請し、より充実した会議にすることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区役所生活支援担当者様とは毎月連絡を取り、入居者さまの状況を報告するなど、協力関係をとるよう努めている。	区役所生活支援課とは毎月連絡を取り、現状報告をし、指導、助言を頂いている。グループホーム連絡会に参加し、研修会にも参加している。地域包括支援センターとも連携を取り、入所者を紹介して貰ったり、相談したり協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむをえない理由がある場合以外、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について職員は内部研修で具体的な行為を理解しており、身体拘束はしないケアに徹している。言葉による拘束、虐待にも配慮している。管理者はもし拘束に当たる行為があった場合はすぐに注意し、朝礼や連絡帳で全員に周知徹底させている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待がないよう常に取り組んでいる。また、事業所内においても、法人の趣旨を従業員全員が共有し虐待防止の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本制度の利用が必要な方については、関係者との話し合いが持てるよう働きかけを行う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、納得や理解をえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者または家族等の目のつく所に意見箱を設置し、要望が反映できるよう会議を開き、周知徹底に努めている。	利用者とは毎日共に生活する中で意向を把握し、家族には面会時に話を聞くよう努めている。聞き取ったことはすぐに運営に反映させるようにし、連絡簿や朝礼などで発表し職員の共有を図っている。運営推進会議でも要望を聞くよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	従業員の意見や提言はその都度聞き、フロア会議や全体会議で取り上げ、運営に反映できるように努めている。	各フロア会議をほぼ月1回開き職員と話し合っている。随時全体会議やリーダー会議、個別話し合いが行われ、職員と管理者間の意思疎通が図られている。職員からは介護に関する意見提案が出ている。個人的な要望なども聞かれて、それぞれ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準とモチベーションの相関を考え、常に従業員が前向きに働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	従業員個々の力量は常に把握しており、法人内外での研修受講の機会を設け、スキルアップできるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の置かれている状況をふまえ、要望に対してこまめに耳を傾け、満足していただけるような環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が来所の際、常に意見や要望を聞き、その内容をサービスに反映させ、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者がどの時点でどのようなサービスが必要かを考え、支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側の一方的な支援ではなく、残存機能を活かした暮らしが出来るよう、職員と共に出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には常に状況を報告している。本人と家族との絆が切れないよう様子を知らせたり、施設行事には家族にも参加をしていただき、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に訪問出来る環境づくりに努めている。催しには家族等も参加していただき関係が途切れないよう努めている。	できるだけ外出機会を増やす様にしている。その中で、馴染みの人に会う機会があって、その人たちがホームを訪ねてくれる。地域で開かれるふれあいサロンへの参加でも馴染みの人との関係が途切れないよう支援している	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場であるため、常に協力をしていただき、関わり合い、支え合いが出来るよう常に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、関係性は継続し、必要に応じ、相談や支援を受けて頂けるような体制をとっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	つねに個別対応の方向で支援しており、個々の人格や要望は尊重するよう努めている。	殆どの利用者は対話できるので、常に話し合って希望や意向を把握している。又普段から一緒に生活する中で、表情や、仕草で希望に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員は常に共通の情報を持って支援を行い、会議で話し合い、個々の状況把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一人ひとりの生活を把握し、気づきがあればその情報を職員全員で共有し、同じ方向に向かって支援をするよう心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人に携わる関係者と話し合い、現状のニーズに適合した介護計画の作成に努めている。	入居時の面談で生活歴、趣味、嗜好と現在の症状を聞き、計画を作成し、症状に変化があるとき、又は6カ月で見直している。モニタリング、生活記録、医療連携記録を参考に居室担当、計画作成担当、管理者で現状に即した新しい計画を作成する。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は職員間で常に共有し、必要に応じ、その都度、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況によって生じる事に対し、その都度話し合い、柔軟な対応や支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の開催により、地域との関わりもとれてきており、地域に催しの協力・参加に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を配慮しつつ、適切に医療が受けられる体制を整えている。	入居時に本人、家族の希望で事業所提携医療機関をかかりつけ医とすることに同意し、内科月2回、歯科毎週の往診を受け、医療連携で看護師が毎週来所する。他科で従来からの医師の受診者もある。この場合家族の協力、不可能時は事業所に対応する。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の悪化が著しい場合や急変の場合など、年間を通してオンコールにて看護職との医療連携体制をとり、適切な指示が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に備え、日々医療関係者との連携を図り、利用者の急変時に備えられるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や看護職とも十分に協議し、その都度最善な対応が出来るよう体制を整備しており、看取りについても適切な対応ができるようチームで取り組んでいる。	入居時に重度化した場合の対応指針を示し本人、家族の了解で同意書を交わす。希望により看取りも行う。主治医が終末期と判断した時、改めて確認する。事業所では適切に対応可能な体制を整えている。病院での終末を希望する人には病院を紹介する。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限必要な医学的知識は法人内や事業所内で研修を定期的に行っており、急変や事故発生時に迅速な対応が出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時のマニュアルは各事業所に備え付けており、緊急時の連絡や避難体制の周知を徹底している。	年2回避難訓練を実施、1回は消防署の指導を受けている。マニュアルで連絡網も整備され、地域の人たちの応援体制も約束済みである。緊急時用備蓄品は整備されているが水害に備えて1階にある倉庫を上層階に移動することも検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	従業員には常に個々の人格に配慮した声掛けを心がけるよう促し、定期的に接遇の研修を行い、対応強化に努めている。	職員の利用者に対する声掛けや接する態度は、特に丁寧ではないが親しみのある、誇りやプライバシーを損ねない対応である。定期的に接遇訓練を行い対応に乱れないよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で、本人の思いや訴えを傾聴しながら、その思いの実現のため、自己決定出来るような雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別対応を基本ベースに取り組んでおり、個々のペースで過ごしていただけるよう柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に添って衣類を選んで着用していただけるよう声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に盛り付けや配下膳をしてもらっており、自宅と同じ様な環境づくりに努めている。	業者から納入されるクックチルの食材を、温かい食事にして提供されている。盛り付け、配膳など利用者も手伝っている。片付けや、洗い物も自分の仕事として楽しんでやっている。おやつ作りを材料購入から利用者参加で週3～4日楽しんで作り、職員も一緒に食べたりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取や栄養バランス等、定期的に管理栄養士と相談し、個々の状態や摂取量が適切かどうか等、健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っており、口腔内の清潔保持に努めている。また、週1回、歯科衛生士による口腔ケアを取り入れ、適切な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを介護記録等で把握し、可能な限りトイレでの排泄をしていたくよう支援している。	排泄リズムを把握し可能な限り、トイレでの自立排泄を支援している。早目誘導でパッドの使用量が減っている。夜間は1時間おきに見回り、一人ひとりのリズムを考えたトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食事と、日々の運動を取り入れている。また、薬剤を服用せざる時には主治医や看護職に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本、入浴日は決まっているが、希望や体調等により、いつでも利用できるよう、対応している。	入浴は週2日以上と決めて、柔軟に対応し希望する利用者はいつでも入浴できる。拒否する人には、時間や日を変え或は担当者を変えたりで対応している。体調やその日の気分を考慮してシャワー浴にすることもある。入浴剤を使ったりで変化をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が一番過ごしやすい生活リズムを確保できる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の目的、副作用を理解したうえで服薬支援に努めている。日々の状態の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴やニーズにそった支援を心がけており、生きる喜びや張り合いのある日々を過ごせるよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩を心がけており、本人の希望にそって外出の機会を確保している。また、季節の催しや地域の催しに積極的に参加できるよう支援している。	毎日少しでも外気に触れるよう心掛けている。近くの公園や神社への散歩、季節の良い時は前庭の芝生で日光浴をしながらお茶を楽しんだり、オヤツ材料の買い物など日常的な外出は多く、花見などには車で遠出もやっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の状況を把握し、それぞれに応じた対応を心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、適切な対応に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室や共用フロアには季節に応じた飾り付けをする等、心地よい環境づくりを工夫している。	玄関は安全上施錠しているが、事業所内は各階へエレベーターや階段を使って自由に行き来できる。居間兼食堂は明るく広く、テレビの前はホットカーペットが敷かれ寛げる。壁に利用者の書初め作品、行事の写真が飾られ、大きな手芸作品で季節感を出している。廊下、トイレ、浴室は清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は自由に過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れた馴染みの物が置かれており、快適に過ごしていただけるよう工夫している。	居室はゆったりとした広さで、ベッド、ナースコール、カーテンの他は利用者がそれぞれ使い慣れた家具、備品を持ち込み、従来からの生活の継続性が感じられ、住みやすく設えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面には常に気を配り、自立した生活が送れるよう工夫している。		